

源氏物語評釋

夕顔

四



帖 第 四

夕 顔

評 釋



蘊 此卷も豎の并なり以哥并詞為卷名 詞はかの向くまけるをあん夕顔と申
 侍るとありおはらみてふと申すとだに見る白紫のひうりてくくかひのたにわく
 こそ採れうともるめかきりれふほのくみつるふはながふあざのりや

釈 并の巻は手平に陰せよのせよめよいつるがとせよひとくかきりあぢむじううじうと平本
 其の末より陰せよとのみと図はの半の成半のすぢを分かんぬあふれす本
 ちゝかのたはこるべーとばせよまで八帯本巻より一はふつてゐる文をよこもよふ
 いへるがごや

評 此巻ハハコリウ夕顔上のりををわするをむひとしてゆく玉容の巻の本をのじかく伏案
 をきりてりや中六條其巻の半成とどかこわのあり一むくつひは巻を採れよ
 いらりてやうりどもを採れよとて伏線を捕りりそのよハ上おも下おもあきりいれ
 ちハハ省きつとて又惟光朝臣ののり大乳乳母ののりあぢせよよりそめてあはされり
 ともども何と採り抽徳の申小採りてゆのづうとあぢせよちふかかれらハ例の法も本を
 みるべーとてきぬ半づういあぢせよー又ア採のり成所く捕りてりてりハ夕顔と同
 ねども對へ物さる人なるふむつる教の抽徳にあぢり遠氏名のかりかみくすのりか
 半をあんあぢせよとてふふとり物と採りたるべー彩巻の採りたるかのためわけの教
 此れ一りむりあぢせよとてみんがにあらそりてりてりてりてりてりてりてり
 つひは夕顔の四十九日のごとてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 合するてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

○夕う

帝本巻下りサバ... 帝本巻下りサバ... 帝本巻下りサバ...

○此巻いながら... 此巻いながら... 此巻いながら...

善正朝年
ま説江談抄
河原院事
共三餘秋奉
タラ見ルハ

サババ... 善正朝年... 善正朝年...

○此條の... 此條の... 此條の...

変化の對へる物あり右近とりの女房のちを因りて...
 せんとしてこころと接し...
 ○へんごのこころ...
 ちのびる文の回...
 いらひた...
 のちあもいと...
 カあど...
 筆の...
 かの女...
 中...
 ら...
 のほど...
 午の...
 る...
 を...
 より...
 ハ...



六条に...のは...

細六条は...の...
 知...
 昔...
 と...
 臣...
 さ...
 伏...
 誰...
 注...
 控...
 の...
 牛...
 妙...
 大...
 皇...
 皇...
 よ...
 一...
 左...
 小...
 大...
 正...
 小...
 〇...

源氏君

六條...は...の...
 ま...
 く...
 と...
 は...
 惟...
 あ...
 の...
 か...
 上...
 せ...
 し...
 湖...
 影...
 観...

拾^レ... _{此の... 〇七}
 〇七... _{〇七...}

... ^少... _{...}
 ... ^獲... _{...}
 ... ^瀧... _{...}
 ... ^{トモ}... _{...}
 ... ^巴... _{...}
 ... ^{トナリ}... _{...}
 ... ^往... _{...}
 ... ^住... _{...}
 ... ^住... _{...}
 ... ^尾... _{...}
 ... ^主... _{...}
 ... ^五... _{...}
 ... ^乗... _{...}
 ... ^{ヤウ}... _{...}
 ... ^サ... _{...}
 ... ^ナ... _{...}
 ... ^ケ... _{...}
 ... ^ケ... _{...}
 ... ^イ... _{...}
 ... ^イ... _{...}

拾^レ... _{〇七}
 〇七... _{〇七...}

... ^容... _{...}
 ... ^女... _{...}
 ... ^泣... _{...}
 ... ^天... _{...}
 ... ^重... _{...}

〇七

あゝとてえとてあゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

⑤ 或抄小倉業... (text continues with various handwritten notes and annotations)

なうらびに... (text continues with handwritten notes and annotations)

すゑむぐい... (text continues with various handwritten notes and annotations, including '道夫ヒテ' and '置')

あゝとてえとてあゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

かのむら... (text continues with various handwritten notes and annotations, including '源ニシタガフ意' and 'イッダ')

のちうきうひらき
かきまが川

河万葉歌
のちうきうひらき
かきまが川
川の中拾遺
郡はあま川あり

秋のゆくゆで
孟里ハあれてハ
ありゆきあま
秋のゆくゆで
河氣疎孟入げ

玉
玉
玉
玉

秋のゆくゆで
孟里ハあれてハ
ありゆきあま
秋のゆくゆで
河氣疎孟入げ

いみじくけいめいしてありくきつたふ。このは
みまほちりそそぬほのくと抱えぬ
おろもひぬえり。かろめなまじくまよげ
みまほちりそそぬほのくと抱えぬ
おろもひぬえり。かろめなまじくまよげ
みまほちりそそぬほのくと抱えぬ
おろもひぬえり。かろめなまじくまよげ

あれなりをあり
秋のゆくゆで
孟里ハあれてハ
ありゆきあま
秋のゆくゆで
河氣疎孟入げ

はまらあひうちありま。まじくあぬこなる
みまほちりそそぬほのくと抱えぬ
おろもひぬえり。かろめなまじくまよげ
みまほちりそそぬほのくと抱えぬ
おろもひぬえり。かろめなまじくまよげ

三句ハ覆面の怪をくくをたの
 しみとくふよきとるあるべし林歌
 小八松をかくもつるを扇てかく
 多うといふ旧説をくもつるを車か
 ねをうもつるを扇てかくもつるを
 といふ方を扇てかくもつるを扇て
 たりとの怪の何なり
 手すの光やいふ **新**んあてふそれ
 かくぞ見る白雲の光やいふとく
 一をめててといひめあへ
 光ありとく **玉**なほ光あると
 かくハそへあててあつる今あつ
 足まハ光ハ赤とあつるとあつと
 するハあへまを光あるとくかか
 一をめててといひめあへ
 といふといふ今の昔をいふとく
 といふといふ **新**此説のいふとく
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏

かれさうともおふあぢも。かれをババとゆる
 てんとのいも。かほたあふか。いもいもど。女
 のいとけしと人まじだ。かふりぢりあひてへ
 てあんも。いもいもいもいもいもいもいも
 中あふひもいもいもいもいもいもいもいも
 一。いもいもいもいもいもいもいもいもいも
 とのいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 びらちらりと。いもいもいもいもいもいもいも
 時れ。いもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ねが。いもいもいもいもいもいもいもいもいも
 町が。いもいもいもいもいもいもいもいもいも

三句ハ覆面の怪をくくをたの
 しみとくふよきとるあるべし林歌
 小八松をかくもつるを扇てかく
 多うといふ旧説をくもつるを車か
 ねをうもつるを扇てかくもつるを
 といふ方を扇てかくもつるを扇て
 たりとの怪の何なり
 手すの光やいふ **新**んあてふそれ
 かくぞ見る白雲の光やいふとく
 一をめててといひめあへ
 光ありとく **玉**なほ光あると
 かくハそへあててあつる今あつ
 足まハ光ハ赤とあつるとあつと
 するハあへまを光あるとくかか
 一をめててといひめあへ
 といふといふ今の昔をいふとく
 といふといふ **新**此説のいふとく
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏

三句ハ覆面の怪をくくをたの
 しみとくふよきとるあるべし林歌
 小八松をかくもつるを扇てかく
 多うといふ旧説をくもつるを車か
 ねをうもつるを扇てかくもつるを
 といふ方を扇てかくもつるを扇て
 たりとの怪の何なり
 手すの光やいふ **新**んあてふそれ
 かくぞ見る白雲の光やいふとく
 一をめててといひめあへ
 光ありとく **玉**なほ光あると
 かくハそへあててあつる今あつ
 足まハ光ハ赤とあつるとあつと
 するハあへまを光あるとくかか
 一をめててといひめあへ
 といふといふ今の昔をいふとく
 といふといふ **新**此説のいふとく
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏
 といふといふ **玉**はかハ氏

此のへびうつて...
 大いなる...
 唯光...
 潮...
 院...
 変化...
 尾...
 夕...
 夕...

心...
 静...
 簾...
 上...
 幕...
 幼...
 御...
 殿...
 油...

此の...
 院...
 尾...
 夕...
 夕...

心...
 静...
 簾...
 上...
 幕...
 幼...
 御...
 殿...
 油...

あつてゐるのうへに... 変化する脈... 河餘 白氏文集第一巻... 梟鳴松桂枝... 黄葉地日暮... 後主為公卿... 秋葉... 中...

あつてゐるのうへに... 変化する脈... 河餘 白氏文集第一巻... 梟鳴松桂枝... 黄葉地日暮... 後主為公卿... 秋葉... 中...

さくら... ちみれ... 南殿... 紫宸殿... 先... 死... 泣... 急... 呆... 宿... 賀... 紫... 大... 夜... 枯... 声...

あつてゐるのうへに... 変化する脈... 河餘 白氏文集第一巻... 梟鳴松桂枝... 黄葉地日暮... 後主為公卿... 秋葉... 中...

へもばうとて昔申んとて

釈一本のりや

釈右近ハ生年人とうちをまげ

とひまづまれば其のまゝとて

とてあつてまゝとてと惟光が

ら入あつてとてとてとてと

まふとてとてとてとてと

こまひとてとてとてとて

ようとてとてとてとてと

あつて

うらら 拾喻 日本紀

あつてとてとてとてと

いふハと見とてとてとてと

未期 竟タリヤ

よやあてとてとてとてと

今とてとてとてとてと

とてとてとてとてとてと

よらとてとてとてとてと

老僧のいひあつてとてと

けりぬるとてとてとてと

のいひとてとてとてと

め。これとてとてとてと

とてとてとてとてとてと

かれとてとてとてとてと

暫時

鎮

状

廻

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

△ニヤ

〇タウ

人の内なる心は...
 と...
 あ...
 ま...
 あ...
 ま...
 あ...
 ま...
 あ...
 ま...
 あ...
 ま...

い...
 う...
 と...
 さ...
 あ...
 フ...
 し...
 と...
 つ...
 な...
 く...
 か...

と...
 湖...
 あ...
 七...
 湖...
 あ...
 七...
 湖...
 あ...
 七...

せ...
 た...
 び...
 く...
 お...
 と...
 ゆ...
 あ...
 と...
 め...
 かん...

〇ク...

あかびは(王補)まうとまをぞと
 りそでかくしんをぞと
 とまうとまをぞと (秋右近が
 ともとまうとまをぞと
 湖師(今
 大とまうとまをぞと
 くのほのほのまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 評)まうとまをぞと
 長夜十声万声無止時 白氏文集
 みののまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと

ゆ。み。か。り。か。ら。あ。の。ま。う。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。
 耳ヤカインジ 裕
 まうとまをぞと 誦
 まうとまをぞと 小君
 まうとまをぞと 伊与
 まうとまをぞと 巴前ノヤウ
 まうとまをぞと 源
 まうとまをぞと 珠
 まうとまをぞと 言
 まうとまをぞと 傳
 まうとまをぞと 遠
 まうとまをぞと 伊与
 まうとまをぞと 文の初
 まうとまをぞと 文の初
 まうとまをぞと 文の初

あかびは(王補)まうとまをぞと
 りそでかくしんをぞと
 とまうとまをぞと (秋右近が
 ともとまうとまをぞと
 湖師(今
 大とまうとまをぞと
 くのほのほのまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 評)まうとまをぞと
 長夜十声万声無止時 白氏文集
 みののまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと
 まうとまをぞと

ゆ。み。か。り。か。ら。あ。の。ま。う。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。ま。を。ぞ。と。
 耳ヤカインジ 裕
 まうとまをぞと 誦
 まうとまをぞと 小君
 まうとまをぞと 伊与
 まうとまをぞと 巴前ノヤウ
 まうとまをぞと 源
 まうとまをぞと 珠
 まうとまをぞと 言
 まうとまをぞと 傳
 まうとまをぞと 遠
 まうとまをぞと 伊与
 まうとまをぞと 文の初
 まうとまをぞと 文の初
 まうとまをぞと 文の初

トウツ 後ふべしおほのゆへ
ひんのはまきとよ

河在止観院西 綱末子部王記云夫
慶六正六藤寛子卒于堂三七日於
叡山東法華堂修諷誦云々

釈法師は布施を 若末よりね
がて然るべき地金銀諸具を省略せ
ざればしてつりしめく徑仙のう
さりに経巻の軸表帛佛像の莊嚴
あつてのよるべし

惟光が又のおごり 釈あつて
つる人あつてのつる人
文章博士 雲文孝士の書字業
を説く 後博士あつて

釈又つてのつる人 玉補若れどつれ
て足さるひくは旅つてのつる人
つる人あつてのつる人 玉補若れどつれ
つる人あつてのつる人 玉補若れどつれ
つる人あつてのつる人 玉補若れどつれ

よ。おほれげふかたひでもあつたばきさく
かろく

かろく 源ミツカ
かろく 如
かろく 如
かろく 如

かろく 如
かろく 如
かろく 如
かろく 如

かろく 如
かろく 如
かろく 如
かろく 如

かろく 如
かろく 如
かろく 如
かろく 如

かろく 如
かろく 如
かろく 如
かろく 如

かろく 如
かろく 如
かろく 如
かろく 如

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ
あつてのつる人 玉補若れどつれ

嘉永六年癸丑新刻

鹿鳴草舎藏板



發行

書肆

江戶日本橋南壹丁目	須原屋茂兵衛
同 淺草茅町二丁目	同 伊八
同 日本橋通二丁目	山城屋佐兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
同 兩國横山町三丁目	和泉屋金右衛門
同 芝神明前	内野屋彌平治
同 日本橋通二丁目	須原屋新兵衛
同 室町二丁目	大坂屋藤助
京都三條通御幸町角	吉野屋仁兵衛
尾州名古屋本町通	永樂屋東四郎
大阪心齋橋通安土町	河内屋和助板

